

(3) 震災に対する安全性の向上

・生活の安全を守り、安心とゆとりを持って暮らせる地域の実現

地域の概況と課題

神奈川県が位置する南関東地域は、地震活動の活発な地域とされており、駿河湾を中心とする地域を震源とする東海地震や神奈川県西部を震源とする神奈川県西部地震などは、神奈川県に著しい被害を及ぼすと想定される地震として、その切迫性が指摘されています（表3-1）。

また、政府により、東海地震の発生によって著しい被害が予想される地域として、県西部を中心とした8市11町が「地震防災対策強化地域」に指定され（図3-1）、様々な防災対策の強化が必要とされています。

地震防災対策強化地域：東海地震が発生した場合に、大きな災害が生じるおそれがあるため、地震防災に関する対策を強化する必要がある地域として内閣総理大臣が指定。

大規模な地震の危険性の高さ

表3-1 神奈川県に影響を与える地震の被害想定

	東海地震	南関東地震	神奈川県西部地震	神奈川県東部地震	
震源	駿河トラフ	相模トラフ	神奈川県西部	-	
規模(マグニチュード)	8	7.9	7	-	
切迫性	ある	100～200年先	ある	-	
震度分布 (メッシュ数比)	7: 0% 6強: 0.2% 6弱: 6.7% 5強: 66.0% ～5弱: 27.1%	7: 12.0% 6強: 26.4% 6弱: 25.8% 5強: 32.8% ～5弱: 3.0%	6強～: 3.5% 6弱: 16.3% 5強: 10.7% ～5弱: 69.5%	7: 0.0% 6強: 17.5% 6弱: 34.3% 5強: 15.4% ～5弱: 32.8%	
崖被害数 (人家あり)	200	1,200	500	770	
建物	木造大破 (棟)	17,000	290,000	28,000	76,000
	非木造大破 (棟)	3,100	29,000	5,700	19,000
人的	死者 (人)	230	16,000	600	2,700
	重傷者 (人)	1,200	6,400	670	2,900
	中等、軽傷者 (人)	6,000	59,000	4,400	20,000
ライフライン	上水道断水率 (%)	7.5	73.5	6.1	62.7
	都市ガス支障率 (%)	14.6	65.4	1.3	92.3
	電気支障率 (%)	0.2	15.6	0.4	9.8
	電話支障率 (%)	1.0	25.6	1.1	16.7

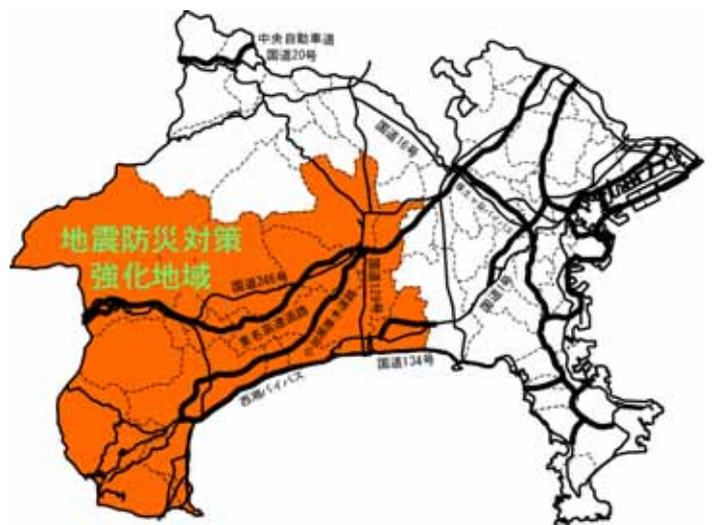


図3-1 神奈川県内の地震防災対策強化地域

出典：中央防災会議資料（平成14年）

出典：神奈川県地域防災計画（神奈川県防災会議、平成12年）



課題

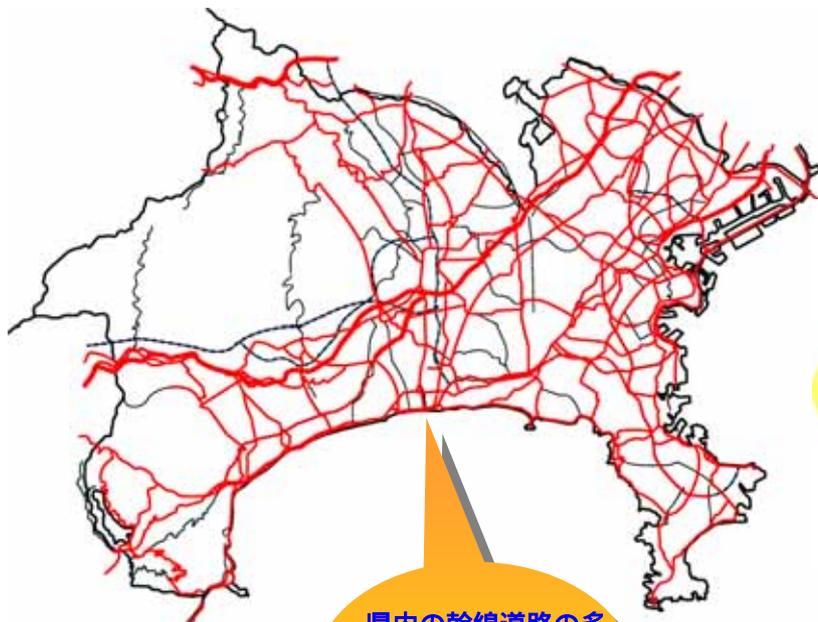
防災対策の強化の一環として、地震等災害時における緊急輸送路の安全・確実な確保が課題となっています。

課題の要因

災害発生時に、応急対策活動に必要となる物資や機材、人員などを県内外から広域的かつ円滑に輸送するために、市町村対策本部、物資受入港、ヘリポート等を結ぶ緊急輸送路が指定されています(図3-2)。道路の防災対策を実行するに当たって、災害に強い道路のネットワーク化による多重性・代替性の向上、道路の耐震性向上など、地震等災害発生時における安全性・確実性が求められます。

緊急輸送路上には高架橋をはじめ、河川横断、鉄道・道路との立体交差など、多くの橋梁が存在します。地震災害時にこれらの崩落や損壊が起きると、重要な役割である輸送路の確保ができなくなることから、神奈川県での道路の防災対策においても、「緊急輸送路の補強整備」が一つの柱となっています(図3-3)。現在、県内の自動車専用道路及び幹線道路の橋梁の耐震補強は、いずれも3割程度残っており(表3-2)、これらの橋梁の耐震補強が急務となっています。

安全性・確実性が求められる緊急輸送路



凡 例	
	第一次緊急輸送道路

第一次緊急輸送道路:

自動車専用道路、幹線道路等で構成する広域的ネットワークの重要路線で、緊急輸送の骨格をなす道路

図3-2 神奈川県緊急輸送路網図

出典: 神奈川県地域防災計画(神奈川県防災会議, 平成12年)



図3-3 神奈川県での道路の防災対策

出典: 神奈川県資料

求められる橋梁の耐震補強

表3-2 神奈川県での耐震補強対策の現況

	耐震補強対象橋梁	耐震補強済み橋梁	耐震補強率
自動車専用道路等	4583基(橋脚)	3273基(橋脚)	71%
幹線道路等	758橋	583橋	77%

資料: 国土交通省・神奈川県・横浜市・川崎市・日本道路公団・首都高速道路公団データ(平成15年)

指標 4 : 橋梁の耐震補強率

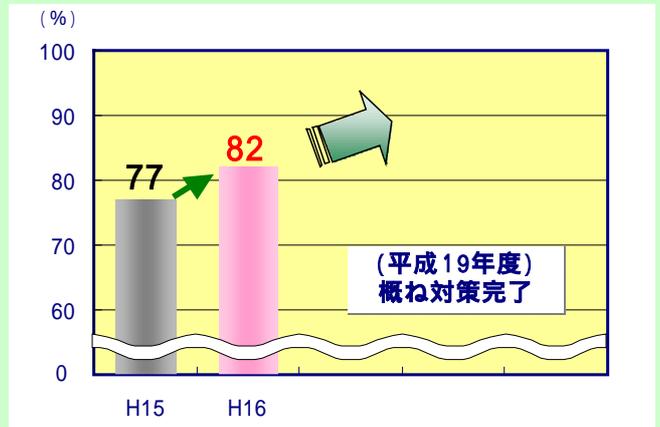
成果目標

橋梁の耐震補強率

橋梁の耐震補強率 = 緊急輸送路上等の耐震補強完了橋梁数 / 緊急輸送路上等の重要橋梁のうち耐震補強対象橋梁数 × 100
 高速自動車国道、都市高速道路等を除く

橋梁の耐震補強率は、現在77%です。
 平成16年度末には82%に、平成19年度末には概ね対策完了とすることを目指します。

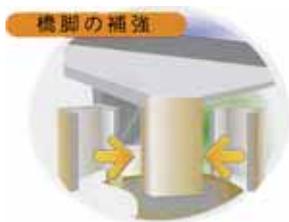
橋梁の耐震補強率の目標値



課題の解決に向けた関連施策・事業

橋脚の耐震補強

地震時の橋梁橋脚の損壊に耐えられるように、鋼板巻立て等による橋脚の補強を順次進めます。



出典：神奈川県資料

落橋防止装置

地震時の落橋を防止するために、チェーン等による落橋防止装置の設置を順次進めます。



出典：神奈川県資料

【小余綾高架橋(国道1号西湘バイパス)】

小余綾(こゆるぎ)高架橋は国道1号西湘バイパスの神奈川県中郡大磯町大磯から東小磯の海岸地帯に架設された橋長約1kmの高架橋です。沿岸部に位置することから、海水による橋脚のひびわれ、剥離、鉄筋露出等が多数発生していることから、塩害対策を進めていくほか、震災に対する耐震補強を実施していきます。



出典：国土交通省資料